

平成25年11月11日

文化庁主催海外展「日本文化」展の開催

文化庁では、平成26年1月から3月にかけて、ベトナム社会主義共和国のベトナム国立歴史博物館（ハノイ）において海外展を開催します。

1. 開催目的

文化庁では、日本の優れた文化財を諸外国に紹介することにより、国の歴史と文化に対する理解の増進と国際親善に寄与することを目的として、毎年、海外で日本古美術展を開催しています。平成25年度は文化庁と九州国立博物館、ベトナム国立歴史博物館の共催で、平成26年1月から3月にかけてハノイのベトナム国立歴史博物館において「日本文化」展を開催します。ベトナムでは初めての海外展の実施となります。

本展覧会は、ベトナム国立歴史博物館との間で、平成23年9月に学術文化交流協定を結び、その成果として、平成25年4月から6月にかけて日越外交関係樹立40周年記念「大ベトナム展」を開催した九州国立博物館との共催により開催いたします。

2. 展示の概要

本展覧会では、縄文時代から江戸時代にかけての考古資料、絵画、彫刻、工芸品、古文書等、我が国の文化と歴史に関する資料70件を展示します。特に仏教美術や朱印船貿易に係る史料、昭和18年に日本からベトナムに贈られた美術品等、両国の交流に関連の深い品々にスポットをあてて紹介し、お互いの文化に対する理解を深めようとするものです。

3. 主催者

文化庁、九州国立博物館、ベトナム国立歴史博物館

4. 会期・会場

会 期：平成26年1月16日（木）～3月9日（日）

1月16日（木）開会式および一般公開

会 場：ベトナム国立歴史博物館（ハノイ）

5. 出品件数 70件（うち重要文化財8件）

<担当>

文化庁文化財部美術学芸課

課 長 江崎典宏 （内線 2884）

評価企画係長 鳥居省司 （内線 3168）

電話：03-5253-4111（代表）03-6734-2887（直通）

九州国立博物館

学芸部長 谷 豊信 電話：092-918-2803（直通）

6. 主な出品作品

重要文化財	顔面把手付土器	(縄文時代)	(所有者：岡谷美術考古館)
重要文化財	弥勒如来立像	(平安時代)	(所有者：宇美八幡宮)
重要文化財	梵鐘	(平安時代)	(所有者：文化庁)
重要文化財	草花孔雀文磬 ^{けい}	(平安時代)	(所有者：文化庁)
重要文化財	金銅孔雀文磬 ^{けい}	(鎌倉時代)	(所有者：文化庁)
重要文化財	松竹双雀 ^{あしで} 葦手鏡	(鎌倉時代)	(所有者：文化庁)
重要文化財	色絵牡丹獅子文銚子	(江戸時代)	(所有者：文化庁)
重要文化財	松藤文兵庫鎖 ^{ひょうごぐさり} 太刀拵	(鎌倉時代)	(所有者：文化庁)

7. 展覧会構成

<第1章> 古代の土器

日本列島では一万二千年前に土器づくりがはじまった。その後、時代の変化に応じて豊かな造形美の土器が作りだされ、古代人の思いを今に伝えている。



火焰形土器
縄文時代 前25世紀
新潟・津南町教育委員会



重要文化財
顔面把手付土器
縄文時代 前25世紀
長野・岡谷市立岡谷美術考古館

<第2章> 金属器と祭祀

紀元前4世紀に朝鮮半島から水稲耕作に代表される様々な技術や文化が日本へ伝わるが、その一つとして金属器がある。その放つ輝きから実用品というよりも祭祀具としての側面が強調され、徐々に大型化・装飾化するという変化を遂げた。青銅器の中でも、鏡は後の段階まで重要視され、首長の墓から出土することが多い。



広形銅矛
弥生時代2世紀
九州国立博物館



突線鈕袈裟襷文銅鐸
弥生時代2世紀
九州国立博物館

〈第3章〉 仏教彫刻

日本には6世紀半ばに仏教が伝来した。天皇が仏教に帰依し、国内で多くの寺院がつけられ、仏教は大いに興隆した。日本で展開した仏像彫刻を紹介する。



重要文化財
弥勒如来立像
平安時代 12世紀
福岡・宇美八幡宮



毘沙門天立像
鎌倉時代 文永8年(1271)
東京国立博物館

〈第4章〉 仏教工芸

仏教伝来以後、仏事・法会に使用される供養具、僧具などが盛んに制作された。日本で花開いた仏教文化の精華を、金属工芸分野を中心に紹介する。



重要文化財
梵鐘 平安時代 貞元2年(977)
文化庁



重要文化財
金銅孔雀文磬
鎌倉時代 建保元年(1213)
文化庁

<第5章> 元寇

13世紀、中国の元は二度にわたって日本に対して多くの船団を送りこみ、激しい戦闘を繰り返した。その攻防の激しさは『蒙古襲来絵詞』によって見ることができる。日本及びベトナムを征するために送り込まれた元の軍船の実態を、近年明らかになった水中遺跡の資料を通して紹介する。



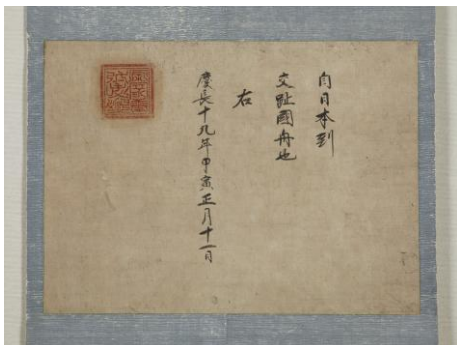
蒙古襲来絵詞 模本 江戸時代 19世紀 東京国立博物館



てつほう 中国・元 13世紀 長崎・松浦市

<第6章> 日本とベトナムの交流史

日本が鎖国政策をとる以前、16世紀から17世紀にかけて、日本からベトナムへ貿易船が派遣され、貿易港ホイアンには日本人が居住して貿易拠点として日本町を形成していた。日越が直接的に交流していた時代を当時の史料で紹介する。



異国渡海朱印状
江戸時代 慶長19年(1614)
九州国立博物館



朱印船交趾渡航図巻
江戸時代 17-18世紀
九州国立博物館

〈第7章〉 江戸の色絵

江戸の色絵は4つの様式が知られる。それは濃厚な絵付が有名な古九谷様式、白の素地に赤や緑などが美しい柿右衛門様式、金を多用し豪華絢爛な金襴手様式、巧妙なデザインと精緻な絵付を誇る鍋島様式である。



重要文化財
色絵牡丹獅子文銚子
江戸時代 17世紀中頃
文化庁



色絵婦人像
江戸時代 17世紀後半
文化庁

〈第8章〉 武の装い

日本において、武具は単に身を守るための道具ではなかった。武士たちは高い美意識を持ち、自らの「いでたち」に常に意を払っていた。そのため、武具は様々な素材と高度な技術を駆使して制作された。このケースでは、武士が生み出した美術を紹介する。



重要文化財
松藤文兵庫鎖太刀拵
鎌倉時代 13世紀 文化庁



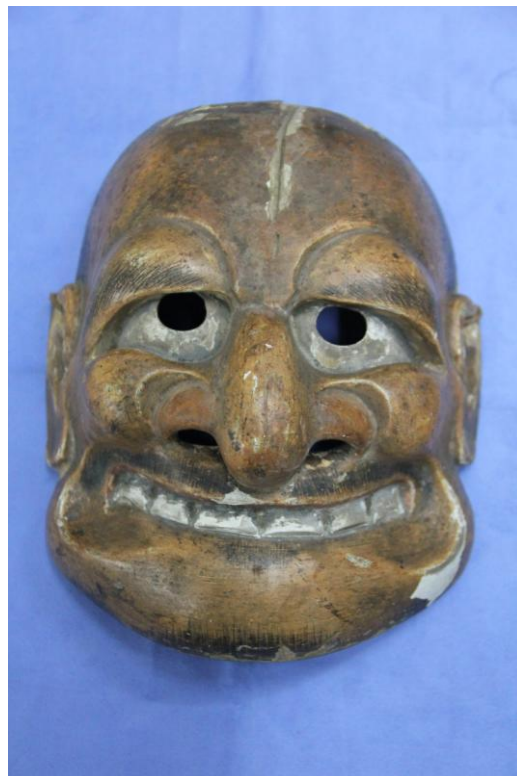
稲富流砲術奥義秘伝図巻
江戸時代 寛永6年(1629)
九州国立博物館

〈第9章〉 古美術交換—守り伝えられた文化財

ベトナム国立歴史博物館には、日本の文化財が保管されている。それらは、昭和 18 年、日本が文化交流を目的として、ハノイに本部を置いていたフランス極東学院に寄贈した品々で、ベトナムの人々の努力によってベトナム激動の時代、多くの困難を乗り越え現代に伝わった。ここに両国の交流を記念して文化交流の歴史を証言する文化財を紹介する。



鐺（中井友恒作） 江戸時代 18 世紀
ベトナム国立歴史博物館



狂言面 武悪 江戸時代 17 世紀
ベトナム国立歴史博物館

補足資料 第9章で展示する日本の文化財について

本展覧会第9章では、ベトナム歴史博物館が所蔵する能面や刀の鐔など日本の文化財美術品 15 件を展示する。

これらは、昭和 18 年に日本が当時のフランス領インドシナに寄贈し、その後、行方不明とされてきた日本美術工芸品の一部である。本展覧会準備のため九州国立博物館が実施した調査で作品の由来が判明した。

東京国立博物館（当時の東京帝室博物館）は、昭和 18 年（1943）から昭和 19 年（1944）にかけて、当時ハノイに本部を置いていたフランス極東学院（l'École Française d'Extrême-Orient）と文化財の交換を行った。昭和 18 年に、東京国立博物館は日本の美術工芸品 31 件を極東学院に贈り、昭和 19 年には極東学院がクメールの彫刻・金工・陶器 69 件を東京国立博物館に贈った。この交換を仲立ちしたのは、現在の国際交流基金の前身である国際文化振興会であった。

極東学院が日本に贈った彫刻類は、現在も東京国立博物館が保管しており、その多くがアジア美術を展示する東洋館に常設展示されている。

一方、東京国立博物館が極東学院に贈った作品の状況については、これまでも日本の研究者が調査を試みたことがあったが、確かなことがわからず、行方不明とされてきた。

九州国立博物館は、本展覧会を準備する過程で、東京国立博物館が極東学院に贈った美術工芸品の一部が、ベトナム歴史博物館の収蔵庫で保管されていることを確認した。これまで存在を確認できたのは 31 件中 21 件である。今回はこのうち 15 件を展示する。これらはベトナムの激動の時代に、ベトナムの人々によって守られ、今日に伝わったもので、両国の文化交流の歴史の証人といえる。

九州国立博物館では、ベトナム歴史博物館と協力して、日本が寄贈した文化財がほかにも残っていないか、さらに調査を行う予定である。